

# 夏場のTMウェットを用いた乳成分維持

暑熱時は乳牛の生理上、乾物摂取量の低下は避けては通れないものではありません。給与飼料の種類、給与方法の工夫でその低下を少なくし、乳成分を維持しなければなりません。

今回は夏場に乾物摂取量を落とさないための技術として当社「TMウェット」の給与他、当農場での取り組みをご紹介します。

## ①「TMウェット」給与

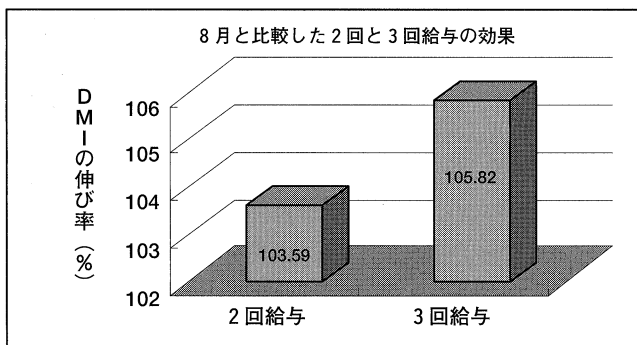
「TMウェット」とは、ビール粕、豆腐粕などの食品副産物と、長もの乾草を混合し、サイレージ化した発酵飼料です。この製品の特徴を一言で言えば、「栄養価、発酵状態の変動が少なく、嗜好性が良い高品質粗飼料」です。暑熱時、乾草給与ではその食い残しが多くなりますが、この「TMウェット」については、よく食べてくれるという声をよく聞きます。これも乳酸・アルコール発酵したウェット飼料の利点の一つと判断しています。

## ②「TMウェット」のバンクライフ（2次発酵）

「TMウェット」を用いたTMRは、給与してからのバンクライフが長いことが特徴の一つです。夏場、単に加水したTMRでは朝に給与したら夕方には2次発酵する危険も多くなります。暑さで大きなストレスを感じている牛が、さらに2次発酵した飼料を採食すれば、いろんな問題が生じてきます。「TMウェット」は、夏場水分のあるTMRを作るのに適したウェット飼料です。

## ③給与回数を増加する（図1）

次に給与回数が増えたら乾物摂取量への影響を紹介



します。当農場は通常2回給与（11：00と15：00）ですが、昨年度は9月からの1カ月間、朝5時にも給与し、1日3回給与としました。9月も2回給与とした牛(対照区)は8月に比べ3.6%の採食量の伸びに対して、9月に3回給与した牛は8月に比べ5.8%採食量が伸び、給与回数の増加が食い込みをよくする結果となりました。

## ④乾草を細断する

これは夏場に行なった試験ではありませんが、乾草を細断することでの乾物摂取量への影響を高泌乳群を用いて調査しました。結果は、細断により約7%乾物摂取量がアップしました。

細断の目安としては、分離給与の場合、乾草は2～5cm程度の細断とし、物理性を確保します。カッティング付きのフィーダーでTMRの調整を行う場合には、「パーティクルセパレーター」を用い適性範囲内に収まるように乾草の細断を調整することをお勧めします。

また細断はTMRの選び食い防止にも期待ができます。TMRといえども牛は確実に選び食いをしています。特に夏場における選び食いは激しくなる傾向にあり、牛の栄養バランスを崩し、乳脂率の低下、アシドーシス等の危険性がでてきます。

これらの飼料面からの工夫に加え、牛舎環境の暑熱対策を充分行い、乳牛の健康に最も注意を払う季節が、私達酪農に携わる者にとっての「夏」です。

(千研 塩原)

## 雪印種苗株式会社

編集発行人 城座 勝明

本社004-8531札幌市厚別区上野幌1条5丁目1番8号

TEL(011)891-5911

### 東北事業部

024-0004北上市村崎野14地割174-1

TEL(0197)66-2226

FAX(0197)71-3307